

囲碁ボール

1 概要

兵庫県柏原町で、当地の囲碁にまつわる故事（とても囲碁が好きな殿様同士が、村人の領地争いを碁の勝負によって決めた）にちなんで考案されました。

7×7=49の目がある「碁盤」にパターゴルフの要領でボールを打ち、ボールの並んだ「目」と個数によって得点を競います。

1/4の大きさのミニ囲碁ボールもあります。持ち運びに便利です♪

2 用具

- ・ 囲碁ボールマット
（縦5m、横2mの人工芝マット）
- ・ ボール20（黒10、白10、硬質プラスチック製）
- ・ スティック（黒1、白1、木製）

【梱包サイズ ※1セット2梱包】

①101×98×16cm 重量 12kg

②201×26×26cm 重量 18.5kg



3 場所

- ・ 原則として屋内で行いますが、屋外でも地面が平面であれば可能です。
※屋外で使用する場合は、地面にシート等を敷いた上で使用し、使用後は用具を軽く拭いてから返却をお願いします。
- ・ マットの大きさ（5m×2m）に加え、周りに人が立ちプレーをする広さがあればできます。

4 人数

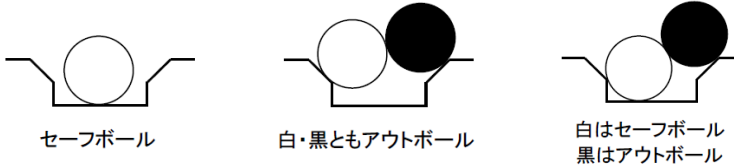
シングルス（1対1）、ダブルス（2対2）、トリプルス（3対3）他、変則的な人数でも可能です。

5 ゲームの進め方

- (1) じゃんけん等で先攻（黒ボール）を決める。
- (2) 黒・白の順で、交互にボールを打つ。
- (3) 各10個のボールを打ち終えたら「1局」終了。両チームが相互審判のうえで、セーフボール（目の底に接触しているボール）だけを残し得点計算を行う。
- (4) 次の局は、前局の高得点チームが先攻となる。前局が同点の場合は、前局の先攻チームが引き続き先攻となる。
- (5) 1試合は5局の総合計で決める。ただし、1試合の時間は30分。試合途中で30分が経過した場合、その局は続けられるが次の局は行えない。

6 ルール

- (1) ボールを打つとき、スティックはボールに1回のみ触れることができる。足はヒットラインを踏んでも越えてもよいが、ボールはヒットラインの外に置く。
- (2) 1局中に1人が打つボールの数は、対抗する人数によって異なる。
- (3) 打ったボールが、すでに打って停止しているボールに触れても、反則にならない。
- (4) 目の底に接触していないボールは、アウトボールとなり1局終了後、取り除く。



- (5) 1試合は30分で行い、時間内に5局競う。30分を経過した場合は次の局に入らない。
- (6) 得点には「ライン得点」と「ポイント得点」がある。

①ライン得点

ボールが縦・横・斜めのいずれかの目に3つ以上並ぶとライン得点となる。

並んだ数を「目(もく)」といい、できた組数を「連(れん)」という。

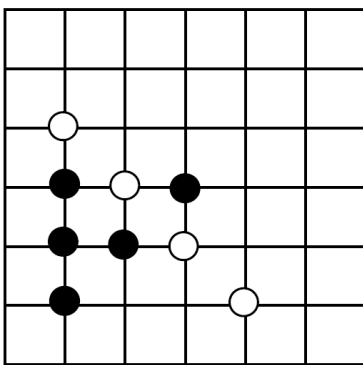
6つ以上並んだ場合は得点とならない。(ポイント得点にはなる。)

②ポイント得点

目(め)に停止しているボール数がポイント得点となる。

チームのボール10個すべてが、どこかの目(め)に入った場合はポイント得点10の他に、特別にライン得点「5目1連(5もく1れん)」が与えられる。

(1局終了時の例)



黒 … 「3目2連」(ポイント得点5)

白 … 「4目1連」(ポイント得点4)

→次のゲームは白が先攻になります。

囲碁ボール・スコアカード

第 試合 [] コート

局	得点別	目	1局	2局	3局	4局	合計	勝敗	相手チーム サイン
黒	ライン得点	5							
		4							
		3	2						
	ポイント得点		5						
白	ライン得点	5							
		4	1						
		3							
	ポイント得点		4						

(7) 試合の勝敗

・全局のライン得点、ポイント得点を合計し、次の順番で勝敗を決定する。

- ① 5目を多くつくったチーム
- ② 4目を多くつくったチーム
- ③ 3目を多くつくったチーム
- ④ ポイント得点数の高いチーム
- ⑤ ①~④で同点の場合は、いずれかの局で一番高いポイント得点を出したチーム
- ⑥ なお同点の場合は、じゃんけん等で決定

4目をたくさんつくっていても、
5目をつくったチームにはかないません…